

表16. 福島これから

- 大部分の妊婦の放射線被ばく線量は低く、先天異常等遺伝的障害は発生しないであろう
- がんの有意な増加が起こるとは考えにくい
- 小児甲状腺がんの有意な増加も起こらないであろう
- 汚染食品の適切な流通・販売規制、適正な除染、住民参加の放射能低減策の徹底など、内部被ばくを減らす努力で福島の将来は明るいと信じる
- 過度な放射線防護で事故の副次的悪影響や健康被害を招いてはならない(チェルノブイリの教訓)
- これから30年以上に渡り、全県民の健康調査(疫学調査)を継続すると共に、住民を心理社会的に支援する必要がある